

慶應義塾大学ビジネス・スクール

キヤノン株式会社

～グローバルエクセレントカンパニー～ (改訂版)

5

2001年、キヤノン御手洗富士夫社長は新たな長期経営計画「グローバル優良企業グループ構想フェーズII」(2001~2005年)を発表した。「真のグローバルエクセレントカンパニー」を目指す長期計画である。

構想の基本的目標は以下の4項目である。

1. 全ての主力事業が世界No.1である 10
2. 次々と新しい事業を創出する研究開発力を有する
3. 長期投資に耐えられる強靭な財務体質を有する
4. 全社員が理想に向かって挑戦する気概に溢れ、自らの仕事に誇りを持つ

キヤノンは創業時のカメラから、事務機、映像、情報ネットワークと持てる技術を発展させながら多角化を図ってきた。日本企業でも、いち早く国際化を推進し、国内外約280社の子会社を再編成して世界三極体制によるグローバル経営を推進している。 15

「共生」、「優良企業構想」など、スケールの大きな企業理念と戦略を掲げ、円高による輸出への悪影響も克服して、グローバル企業として着実な成長を遂げてきた。2000年度ではグループ売上高2兆6,964億円、従業員86,673人の規模になっている。(2003年12月期同売上高3兆1,981億円、同従業員102,567人) 20

1. 御手洗富士夫社長の就任

1995年9月、御手洗肇社長が在任2年半、56歳の若さでの急逝によって、急遽社長に抜擢されたのは、肇社長とは従兄弟、創業者御手洗毅氏の甥にあたる御手洗富士夫副社長であった。 25

御手洗肇前社長は創業者御手洗毅氏の長男であり、スタンフォード大学で博士号を取り、米国企業で電子技術の研究者として活躍していたが、キヤノンの電子技術を強化する為に入

本ケースは、クラス討議のための資料としてまとめられたものであり、経営管理に関する適切あるいは不適切な処理を示すことを意図したものではない。

本ケースは、慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授柳原一夫の指導の下に、同研究科M12期修了生大久保隆弘が作成した。作成にあたっては、キヤノン株式会社事業企画本部、PRセンター広報部から関連資料の提供を受けるとともに、御手洗富士夫社長の講演(2004.4社団法人企業研究会主催)からも引用した。(改訂2004.5)

30